

(R2. 10. 13～14)

オツボ峰植生保全作業を実施

令和2年10月13日(火)から14日(水)にかけ、オツボ峰の植生保護を目的とした保全作業を朝日庄内森林生態系保全センター職員2名により実施しました。

今年度は9月7日(月)から8日(火)にかけて既に保全作業を行っておりますが、その後、破損箇所があるとの情報をいただき、再度入山しその箇所の補修を行ったものです。



タキタロウ小屋(大鳥小屋)

雲はやや多いものの、紅葉や、咲き残ってときおり見かけるイワイチョウやタカネマツムシソウ、オヤマリンドウなどの花を楽しみながら目的地に向かいました。



イワイチョウ



オツボ峰付近に吹き付ける強い風は、積雪を吹き飛ばし、土壌の凍結・融解、砂礫の移動を伴った厳しい生息環境を作ります。

登山者の踏圧が、植物の生育の阻害、表面流水による浸食を引き起こさないように、ロープを張って歩道以外への立入りを防ぎ、過酷な環境に生育する高山帯自然植生を保全することが、この作業の目的です。



風衝地の裸地



作業前

曲がった鋼杭を付け替えロープを通す、作業そのものは30分ほどで終了しましたが、現場は非常に冷たい風が吹き付け、山はまもなく長い冬に閉ざされる、そんなことを思いながらの作業でした。



作業中



作業後

朝日センターは、今後も朝日山地の保全において果たしうる役割に、一所懸命に取り組んでいきたいと考えております。

東北森林管理局
朝日庄内森林生態系保全センター